

【開会 午前10時】

1 開 会

2 競輪事業部長挨拶

○部長 本日は、皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、皆様には、日頃より市営函館競輪の運営にご理解とご協力をいただき、衷心より、感謝を申し上げる次第でございます。

昨年度は、26年度に続き単年度黒字を計上し、3年連続で累積赤字を減らすことができ、大変うれしく思っている。

後ほど、課長から説明がありますので、私からは、全国の売上状況等についてお話しさせていただく。

昨年度の全国の売上は約6,236億円で、対前年度比1.5%の増となり、2年連続で対前年度を上回った。この要因として、FⅠ・FⅡ、普通競輪の開催において、効果的な場間場外の発売拡大や、FⅡの節数削減、ミッドナイト競輪の開催、ガールズ競輪による効果等が上げられている。函館は、198億円の売上で、全国43場中、6位であった。

今年度は、4月から6月までの四半期において、公営4競技のうち、競輪とオートが若干、前年度比マイナスとなっており、この要因として、「2場が施設改修のため休止し、また熊本地震により、熊本競輪場が被災し、レースが出来ない状態で、結果的に4年ぶりにマイナスになった」と言うことであった。施設改修の2場は、7月からと11月から、熊本競輪場も他場を借り上げて、開催するとのことで、今後は回復するものと考えている。

競輪界としては、2年連続で売上げ増加を実現し、長らくの低迷から抜け出す兆しが見えつつはあるものの、将来的には人口減少によりお客様も減ってしまうことは明らかであり、競輪事業が引き続きその目的である、機械振興、公益の増進そして地方財政への寄与し続けるためには、今まで以上にお客様に満足いただける競輪を提供していかなければならないと

いうことで、現在、2020年に向けた、中期基本方針を定め、「お客様第一主義」のもと競輪界の本質的な課題の克服に取り組んでいるところである。

函館競輪においても、「お客様第一主義」のもと、各種ファンサービス、レース提供等々に努めて参りたいと思っている。

来年度には、累積赤字も解消出来ることとなりましたので、平成12年度からできていなかった一般会計への繰り出しも再開出来るものと考えているが、平成13年・14年に改修した競輪場も15年が経過しており、数年前から一部改修、機器・設備の修繕等が多くなり、施設改修のため、積み立てしながら一般会計に繰り出ししていきたいと考えている。

3 報告事項

(1) 平成27年度自転車競走事業特別会計決算について

(提出資料(1)に基づき米田事業課長から説明)

- 今井会長 場外や電話投票の売上が好調だったのは、開催日程がよかつたからなのか、何か取組を行った結果なのか、分析等はいかがか。
- 部長 開催日程がよく、競合が少なかったことが売上好調の要因と考えている。
- 藤森委員 収益について。資料を見るとGⅡ(SNF)の収益が約1億9千万円だが、この売上が好収益に結びついたということによいか？
- 部長 特別競輪は、通常のFⅠ・FⅡ、記念開催にプラスする形で開催できるため、GⅡ(SNF)の売上が今回の2億円の黒字につながったと考えている。GⅡ等の特別競輪がなかった25～26年度は4～5千万の黒字で推移している。
- 藤森委員 28年度以降のGⅡ等の特別競輪の開催、誘致状況は？
- 部長 誘致の努力はしているが、他場との競合が激しいため、28年度は特別競輪の開催はない。29年度については、函館競輪場でナイター競輪が発祥してから20周年ということで、是非函館でGⅡのサマーナイトフ

ェスティバルを行いたい旨、ナイター場が集まる会議で発言し、他場へ理解を求めてきた。

○藤森委員 是非頑張って誘致してもらいたい。

(2) 平成28年度市営函館競輪売上状況について

(提出資料(2-1)に基づき米田事業課長から説明)

○今井会長 F I・F IIの売上が伸びているが、購買層やファンの競輪の見方等に変化があったのだろうか。

○部長 そうではなく、函館競輪場ではF I・F IIをオールナイターで行っているため、日中にレースを行うのに比べ他場との競合が少なく、さらに事業部の営業努力により場外の売場が増えたことで、売上が伸びていると考えている。また、函館記念で優勝した新山響平選手など、スター選手が登場すると売上は大きく伸びる傾向になる。藤巻兄弟杯でもその傾向は見られた。

他の場のケースではあるが、どうしても日中のレースでは競合が激しく、地区で協力してカップレース(ジャパンカップ・西日本カップ・東日本カップ)を行い、互いの場で売り合う取組も見られるが、若干の好転は見られるものの、目に見えた効果はまだ出ていないようである。近年ミッドナイト競輪を開催する場も出てきており、これは観客を入れずにネット投票に特化した開催形式ではあるが、特に売り込みの難しいF IIレースを競合の少ないミッドナイト競輪で開催することにより、売上を伸ばすことに成功している場もある。

○穴田委員 記念競輪の売上が27年度に比べて9億7千万円も落ちているが、この理由を言った方がいい。雨や台風の影響か？

○課長 売上減少の原因としては、日程によるものが大きいと考えている。27年度の記念競輪は10月31日(土)～11月3日(火)の日程であったが、最終日の火曜日が祝日であった。28年度は7月23日(土)～

7月26日（火）の日程で、最終日が平日開催となった。最終日が休日か平日かの違いで、売上に大きな影響が出てしまったと考えている。

○穴田委員 日程調整が悪かったということか。スター選手が来ていなかったことも大きいのでは？SS選手が一人くらいだったように思う。記念に目玉を呼ぶ努力をしなければならないのでは。

○部長 事業部の努力不足ではなく、今回は出場予定の有力SS選手がケガをしたため、出場できなかった。やはり、スター選手がいないと売上は悪くなる。今年目標は55億円であったが、出場があれば目標額に近いところまでいったのではないかと考えている。

○穴田 記念に出場するSS選手は、本人の希望で出場できるのか、JK Aの斡旋ありきなのか、施行者の希望なのか。

○部長 SSは9人しかいないので、毎週のように記念開催がある中では本人の要望はなかなか通らないと聞いている。基本的にはJK Aの斡旋で、施行者から希望も出してはいる。

（3）平成28年度函館競輪下期開催日程について

（提出資料（3）に基づき米田事業課長から説明）

○小笠原委員 27年に比べ、55日から49日になっているが。

○部長 開催日は減っているが、他場とかぶらないように調整し、売上に大きな影響は無いと考えている。

近年ナイター開催場が増えてきており、競合数も増えている。日程調整もナイター競輪へ新規参入してきた場が古参場に配慮して日程の空いている冬場を中心に日程を組む等、今のところ調整することができている。しかし、今後の状況次第では、FⅡナイターの複数開催が発生し、共倒れのおそれもあるので、そうならないよう今後も調整を続けていきたい。また、1場ごとの開催日数も決まっており、以前は70日程度だったが現在は基本46日に削減されている。本場での開催を減らせば、お客様も離れてしまうという一面もありつつ、ネット投票の割合が大きくなっており、

全国的に本場の入場者数がそもそも減ってきている傾向にある。

○小笠原委員 この開催日程の減少は、函館市の意思なのか、他場との調整の結果なのか？

○部長 調整の前段に希望日程の照会があり、基本46日を踏まえて希望を出すことになっている。今後数年は開催日程が少なくなっても、前述の通りナイターの競合を少なくすることで、売上に大きな影響はないと考えるが、他場も売れないFⅡを日中からナイター等に切り替えることで売上が改善されることはわかっているので、今後函館が開催する上期日程に入ってくれば、前述の通り共倒れになりかねない。そこは知恵を出し合おうとのことで、全国競輪施行者協議会の中期方針に基づき各場と調整をしているところである。

現状函館は日中ナイター併せて3場分併売することができる。お客様としては多くのレースに投票できることで、買いやすいレースを選ぶことができる。システム的には8場併売まで対応することができるが、他場やサテライトの多くが予算等の問題で3場以上の併売ができない状況にある。設備改修への補助をJKAが出せるような取組を進めていかななくてはならない。

○木田委員 入場者数が減っていることについて。もっと来場して臨場感のあるレースを楽しんでもらいたいが、このたび新幹線が開業し、「新幹線効果」は出ているのか。

○部長 今回の記念競輪では、りんりんバスを新函館北斗駅から競輪場まで運行している。また、新幹線効果を狙って、新幹線沿線の競輪場や場外車券売場へ函館の特産品等を送付するなどPR活動が続けているが、その効果を具体的な数字として把握はしていない。青函では、お互いの記念競輪開催の際に、それぞれの場のお客さんを招待し合っているが、新幹線というよりは青函交流にとどまっている。新幹線効果を狙う取組は始まったばかりであり、具体的な効果はまだ出ていないものの、今後も精力的に取り組んでいきたい。

- 木田委員 なかなか目に見える効果というものはつかみにくいと思うが、新幹線効果というよりは、沿線効果を狙った取組を今後も十分取り組んでほしい。
- 部長 入場者関係で言えば、ガールズケイリンのレースでは若い世代や女性客、カップル客が目に見えて増えており、お客様からの要望を取り入れる形で3階特別観覧席にカップルシートやレディースシートを設けている。
- 木田委員 海外からの観光客も視野に入れ、観光のオプションで競輪を組み込んだものを考えてはどうか？
- 部長 駅前周辺のビジネスホテルを中心に、競輪場への誘致を進めている。地元のお客さんもさることながら、海外からの観光客に来場していただくために、フェイスブックにて包括委託業者が中国語での記事を制作するなど誘致を進めており、経済産業省や競輪団体でも、海外の人向けに競輪を紹介し買っていただくための研究を進めているところである。またサテライト札幌にて中国人を対象にパンフレットを制作するなど、海外観光客向けに独自の取組を進めている。
- 課長 補足であるが、りんりんバスは新函館北斗駅から競輪場までの往復で2台運行したが、記念の際の利用者数は4日間で60名であった。
- 今井会長 徐々に浸透していけば良いと思う。

4 その他

- 今井会長 事務局，委員からなにかあるか？
(事務局・各委員：特になし)

＝以上をもって終了＝